

在ホノルル日本国総領事館便り

2025年7月号

Vol.14

メンバー紹介：木間派遣員



在ホノルル総領事館で派遣員を務めております、木間涼花と申します。2024年9月に着任し、10ヶ月が経ちました。派遣員としての業務は多岐にわたりますが、その中でも館員の離着任や出張者の受け入れ対応などに重点的に携わっています。特に、館員の離着任支援ではそれぞれのホノルルでの任期の最初と最後の瞬間に立ち会えることが嬉しいです。自分が着任した当時の志や、限られた任期を実感して日々の業務に一層気が引き締まる思いです。また、出張者対応では、ハワイに関する多角的な知識が求められるため、最近はハワイ出身で日本でも活躍したスポーツ選手について学ぶなど、日ハワイ関係への豊かな理解で、より良い受け入れ対応を実現できるよう努めています。ハワイは、私が10歳の時に初めて訪れた海外であり、世界に興味を抱く原点となった思い出深い場所です。これまでの海外生活としては、大学時代にエストニアへ交換留学していた経験があります。雪につつまれて澄んだ空気は、ハワイとは全く異なる魅力があるので、常夏の環境にいと当惑が恋しくなるときもあります。留学中は本やバレエ鑑賞などの芸術が趣味でしたが、今では毎週末海に出てサーフィンをしています。気候に背中を押されながら、自分の嗜好もより外向的になった気がします。残りの任期もハワイでの学びと出会いを大切に、自分自身もより成長できるよう丁寧に努めて参ります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

ハワイ島・ヒロ ハワイ・ジャパニーズ・センターで妖怪展を開催

当館は、国際交流基金およびハワイ・ジャパニーズ・センター（ハワイ島・ヒロ）と共催で、国際交流基金海外巡回展「妖怪大行進：日本の異形のものたち」を開催します。会期は2025年8月2日（土）から30日（土）までです。絵巻や錦絵、立体像など多彩な資料を通じて、日本の妖怪文化の魅力を紹介します。展示は妖怪研究の第一人者・湯本豪一氏監修の高精細レプリカが中心です。妖怪たちの変遷をたどりながら、日本文化の奥深さとユーモアを感じる機会となるでしょう。ご家族やご友人と一緒に、不思議で楽しい夏のひとときをお過ごしください！皆さまのご来場を心よりお待ちしております！



地方都市の魅力発見：『100年フード』に輝く名物

今回は、沖縄県の郷土料理「ティビチ料理」をご紹介します。琉球王国時代、豚肉は高級食材として宮廷料理に使われ、ティビチ（豚足）料理も提供されていました。戦後、沖縄の食文化が危機に瀕した際、ハワイの移民ウチナーンチュが豚を沖縄に送り、1948年に現在のうるま市に到着しました。これにより豚は再び繁殖し、ティビチ料理も守られました。うるま市はこの日を「海から豚がやってきた記念日」として制定し、食文化の継承に努めています。ティビチは煮付けや沖縄おでん、そばなど、今も多様な料理で親しまれています。



ティビチ料理（写真提供：文化庁）



ハワイ州と沖縄県の旗

2025年、沖縄からハワイへの移民船が到着して125年を迎えました。沖縄県とハワイ州は、1985年に姉妹提携を結んで以来、長年にわたり深い絆を育んできました。そして今年は、姉妹提携からちょうど40周年という節目の年を迎えます。この特別な年には、移民の歴史や文化的つながりを改めて振り返りながら、教育・経済・観光・文化交流などさまざまな分野での連携をさらに強化し、両地域の友好と協力の未来を築いていくことが期待されています。40年にわたる友情の証として、記念行事や交流イベントも予定されています。



「100年フード」とは、文化庁が地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を「100年続く食文化」として認定し、次世代に継承していく取り組みです。多様な食文化の継承と振興を目指し、文化庁が推進しています。

日本のイベント紹介コーナー：Expo2025 大阪・関西万博（アメリカ館）



2025年の大阪・関西万博におけるアメリカ館では、「未来への架け橋」をテーマに、イノベーションと多様性を軸とした展示が展開されています。館内では、最新のテクノロジーを駆使したインタラクティブな体験型展示や、アメリカ社会の文化的多様性に触れられるコンテンツが多数紹介されています。7月19日にはアメリカのナショナルデーが祝われ、式典にはベッセント財務長官をはじめとする米国政府代表団が出席しました。今後は、ハワイの魅力を発信するイベントとして、ハワイアンミュージックのコンサートやフラダンスのパフォーマンスも予定されています。アメリカの多彩な文化に触れる貴重な機会ですので、ぜひ足をお運びください。（2025年大阪・関西万博公式サイト：<https://www.expo2025.or.jp/>）



7月のスナップショット

東西センターのコナーズ新所長との意見交換



7月11日、兒玉総領事は、東西センターの新所長に就任したセステ・コナーズ氏を公邸にお招きして意見交換を行いました。コナーズ氏は、米国家安全保障会議や国家経済会議の元ディレクターであり、外交官としても国際経験が豊富です。企業、非営利、学術分野にも精通し、東西センターの発展に加え、日本との人的交流や学術協力、気候変動対策など、多分野での連携強化に貢献が期待されています。

マキキ墓地（明治元年渡航者の碑等）盆法要

7月14日、春田首席領事は、マキキ墓地にて執り行われたハワイ日系人連合協会（UJSH）主催の盆法要に出席しました。マキキ墓地には、旧日本海軍墓地、明治元年にハワイへ渡航した初期移民を記念する碑、そして官約移民の「寄せ墓」など、日系移民の歴史を物語る数々の史跡が残されています。この盆法要は、ハワイに根を下ろした日系人や日本から渡った先人たちの御霊を慰め、その功績を偲ぶ場として、長年にわたり当地の日系社会において大切に受け継がれてきた伝統行事です。式典には多くの関係者や市民が参列し、先人たちへの感謝と敬意を新たにす、厳かで心温まるひとときとなりました。



ホノルル日本人商工会議所の年次総会

7月17日、ホノルル日本人商工会議所の2025年度役員就任式・功労者賞授賞式に春田首席領事が参加しました。デレック・カネシロ新会長をはじめとする新役員や功労賞受賞者が紹介されました。同会議所は創立125年を迎え、ハワイの主要経済団体として地域経済を支えています。1868年以降の日本人移民により、相互扶助の精神で設立され、日米・日ハワイ間の経済交流や友好促進に尽力してきました。今後もその歴史と実績を礎に、会のさらなる発展を期待するとともに、日米・日ハワイ関係の一層の強化に貢献していただきたいと思います。



米日カウンシル主催「TOMODACHI Kibou for Maui」プログラム フォローアップセッション

7月26日、大島領事は、米日カウンシル主催の「TOMODACHI Kibou for Maui」プログラムのフォローアップセッションに出席しました。本プログラムは、2023年8月にハワイ・マウイ島で発生した壊滅的な山火事の被害を受けた高校生を支援する取り組みで、ラハイナ地区の高校生で構成される3組の訪問団が東日本大震災の被災地である東北地方を訪問し、復興の知見を学び、再建に向けた意見交換を行いました。甚大な災害を経験した東北とマウイの高校生たちが、それぞれの経験を共有し、希望とレジリエンスを育む貴重な機会となりました。フォローアップセッションでは、プログラムに参加した生徒たちがラハイナの復興のために、何ができ、どのように取り組んでいくかを議論しました。



福島県議会議長とホノルル福島県人会幹部との意見交換会

7月30日、兒玉総領事は、ホノルルを訪問中の西山尚利福島県議会議長とホノルル福島県人会の幹部を招き、意見交換会を行いました。福島とハワイは、県人会などを通じて長年にわたり強い絆で結ばれており、この意見交換会は、ふるさとの福島に思いを寄せ、交流を続ける県人会の皆さんとの関係をさらに深める貴重な機会となりました。県人会の皆さんは、福島固有の美しい自然や伝統文化、人の温かさをハワイに伝える大切な役割を担っており、福島地方創生に向けた取り組みにとっても心強い存在です。今後も世代を超えて福島への思いが受け継がれ、福島の魅力が広がっていくことが期待されます。



当館のHPとSNS
をぜひご覧ください！



JP Consulate HP



Instagram



X (Twitter)



Facebook